

オペラでよかっぺ 歌でつなぐオペラリレーコンサート

2023年11月4日(土)

プログラム

聴いてみよう

《魔笛》より「パパパ」
 《ヘンゼルとグレーテル》より「踊りましょうよ」「十四人の天使」
 《魔笛》より「なんと美しい絵姿」・《セルセ》より「ラルゴ」
 《アドリアーナ・ルクヴルール》より「苦い喜び、甘い責め苦」
 《ナブッコ》より「行け、わが想いよ、黄金の翼に乗って」
 《椿姫》より「乾杯の歌」・《セビリアの理髪師》より「序曲」

見比べてみよう、オペラと演劇

《愛の妙薬》より二重唱「ラララ」

歌ってみよう

《カルメン》より「闘牛士の歌」・《メリー・ウィドウ》より「昏は閉じても」

「歌でつなぐオペラリレーコンサート」が2023年11月4日(土) 日立シビックセンター音楽ホールで開催されました。コロナ禍以降久々のコンサートに出演者たちは、歌い、踊り、演技し舞台に立てる喜びを存分に発揮し「オペラを聴いて！観て！歌ってみて！オペラっていいでしょう！」とのメッセージを送りました。また観客もとても温かい雰囲気の中でコンサートを待っていたかのようにでした。ナビゲーターはテノールの相山潤平さん。曲目紹介や体験を交えたオペラあれこれを明るく大らかな話術で進めていきました。歌の伴奏は地元日立の3人のピアニストとオペラでよかっぺアンサンブルが支え、リードしました。

聴いてみよう

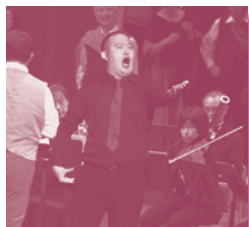
始めは、子どもオペラ学校卒業生の合唱で《魔笛》より1曲と、夏のオペラ体験者も加わり《ヘンゼルとグレーテル》より2曲を歌いました。振り付けや衣裳も自分たちで相談して臨んだとのこと。美しい歌声とはつらつとしたダンスにたくさんのブラボーが掛けられました。次は、声質の違いと役柄で違う表現の工夫で存分に聴かせた3人のソリスト。バリトン黄在麟さん、テノール豊原奏さん、メゾ・ソプラノ大津香津子さんがそれぞれ1曲オペラの名曲を歌いました。ひたちオペラ合唱団は《ナブッコ》より「行け、わが想いよ、黄金の翼に乗って」の故郷を追われた人々の思いを豊かなハーモニーで表現しました。ソプラノ岡部恵美子さんとテノール豊原奏さんとひたちオペラ合唱団で《椿姫》より一曲。楽しいサロンの様子を表現しました。最後にオペラでよかっぺアンサンブルが《セビリアの理髪師》より一曲を軽やかに演奏しました。

見比べてみよう

オペラと演劇の比較では、《愛の妙薬》のワンシーンを劇団コミュニケーションの芸達者な演技で見せ、その後、ソプラノ薄井美伽さんとテノール相山潤平さんが二重唱でコミカルに歌を披露し、会場は大いに沸きました。

歌ってみよう

《カルメン》より「闘牛士の歌」を黄在麟さんと合唱団が歌い、「オーレ！」のかけ声には会場の皆様も参加し大いに盛り上がりました。最後は、《メリー・ウィドウ》を全員で歌いました。心には熱い想いを秘めつつ穏やかに終演となりました。



たくさんのブラボーと拍手をいただきました。歌のリレーは見事完走しました。

お客様の声

アンケートにはたくさんのお褒めの言葉や応援のメッセージが寄せられましたので一部をご紹介します。

最初の子どもオペラ学校卒業生の声のきれいさに驚きました。次にリレーされる曲に満足と感激がありました。とても楽しかったです。

とても面白い企画で楽しめました。オペラの扉が大きく開きました。ブラボー！です。

内容が素晴らしい。初歩の方にわかりやすい。ぜひこのような企画をしてほしい。子どもの共演がオペラの次世代につながる。

後半出だしの演出最高でした！オペラを楽しめた。オペラは楽しい！ナビゲーター最高でした。とても楽しかったです。また来たいです。

参加者の声

半田智子さん（ひたちオペラ合唱団）

今回所属しているオペラ合唱団から初めて実行委員として参加し、企画からコンサートを創るという貴重な経験をさせていただきました。

コンサートの後、「こんなに楽しいなら家族も誘えば良かった」「初心者でも楽しめる工夫が素晴らしい」「ぶらっほ！」のメールが友人から続々届き、オペラに馴染みの無いお客様にもオペラを楽しんでもらいたい！というこのコンサートの思いがしっかりと伝わった事が嬉しくて自信になりました。

私たちオペラ合唱団も舞台を華やかに盛り上げようと演出や衣装を考え、小道具を手づくりし、心を込めて歌いました。「行け、わが想いよ、黄金の翼に乗って」を歌った時の集中し研ぎ澄まされた空気感が印象に残っています。

最後になりましたが、相山さん、ご指導下さった先生方、共演させていただいた皆様、シビックセンターの職員の皆様、お世話になりました。おかげさまで幸せな音楽の時間を過ごせましたこと感謝申し上げます。ありがとうございました。

田村恵美子さん（劇団コミュニケーション）

《愛の妙薬》のストーリーが目に見えたら、「ラララの二重唱」をさらに楽しく鑑賞できるのではとの案が起こり、豊田団長の脚本、演出で演劇化に挑みました。たった10分程度の芝居でしたが、オペラの華やかさを演劇でも表現しようと、稽古、道具、衣装のどれも追究しました。コミュニケーションの芝居からソリストの相山さんと薄井さんの歌に繋がっていく瞬間は、まさにバトンを渡した感覚で、爽快でした。私たちもオペラの楽しさを伝える役割を果たせた気がして本当に嬉しくなりました。

オペラと演劇をはじめ、出演者とお客様、「今ここ」から次の舞台へと、様々なバトン渡しが実現したコンサートだったと思います。参加させていただき、ありがとうございました。

岡田美紗希さん（オペラでよかっぺアンサンブル）

今回、アンサンブルとしてオペラリレーコンサートに参加させていただきました。私がいじめてオペラに出会ったのは、小学生の時でした。当時は合唱の一員として参加する機会をいただきました。歌うことが大好きな子どもだった私に、共演者のみなさんが一から丁寧に指導下さり、只々楽しかったことを、今でも鮮明に覚えています。

オペラは総合芸術と言われていますが、歌やバレエ、オーケストラや舞台美術、衣装等と様々な分野の芸術が融合された、素晴らしい作品です。故に敷居が高いと感じる方も多いのかもしれません。しかし、私は幼少期にこのような貴重な体験をする事が出来たことで、大人になった現在でも、音楽が大好きで活動を続けています。それが出来るのは、こうした演奏する機会があってこそだと感じています。

これからも皆様に、オペラを通して、音楽の持つ人に勇気をあたえ、生きる希望や喜びを味わっていただけたら、幸いです。

計 報 相山潤平さん

日立のオペラ事業に多大な貢献を頂きました相山潤平さんが、2024年2月5日にご逝去されました。上記公演においては、実行委員として企画をまとめると共に、テノール歌手としてのソリスト出演、更にはナビゲーター、指揮者としてもご牽引下さいました。相山さんの想いがこもったコンサート、「オペラ」と「歌」で、皆がつながることができました。このリレーはこれからも続いていきます。

相山さんのご冥福を心よりお祈り申し上げます。

